

## 5月度の観察記録

カテゴリ : 2021年

\_MD\_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2021-5-9

2021年5月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2021年5月9日(日) 9:30~12:15 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子  
天気: 晴れ 新型コロナウイルスの感染状況は改善しないどころか感染者数が過去最多を更新するなど深刻な事態が続いています。自然観察会を再開することはできず、以下を2021年5月の記録として残します。大坂池を南側へ回り、里の道に向かって歩き始めました。最初に出会ったのは馴染みの深いツマグロオオヨコバイでした。また久しぶりに白い触角が目立つ昼行性のガ、クロハネシロヒゲナガと出会いました。触角が短いのでメスと思われます。

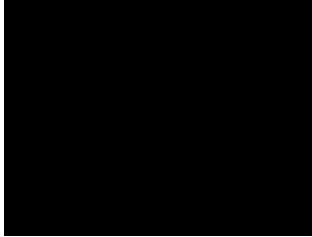




ツマグロオオヨコバイ クロハネシロヒゲナガ **ズミの花**が満開でいい香りがしていました。イボタノキの花が咲くにはまだ少し早く、つぼみがふくらんでいました。足元には**アメリカフウロ**の花が咲いていました。

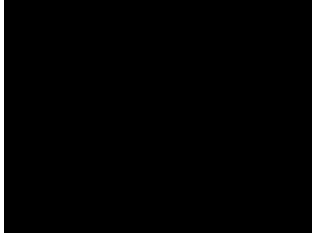


ズミの花 イボタノキのつぼみ アメリカフウロ **イボタノキの近辺には**の花が一面に咲いていて、たくさんの**モモフトカミキリモドキ**が訪れていました。モモフトカミキリモドキはオスの後ろ脚の付け根が太いためにその名がついていますが、この日見かけたものはほとんどがメスのようなものでした。また**ヤブキリの幼虫**もあちこちで見られました。



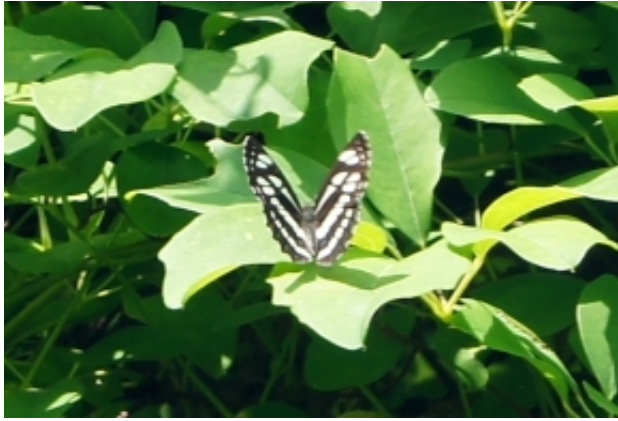
ハルジオンとモモブトカミキリモドキ ヤブキリの幼虫 ニシキギの花はもうほとんどが終わりかけていました。わずかに残った花を写真におさめました。その近くの草むらにはコスズメがいて、写真を撮るため草をかき分けてもほとんど動かずじっとしていました。





ニシキギ コスズメ ノイバラの花もたくさん咲いていてコアオハナムグリが集まって来ていました。そのノイバラの根元にはイモカタバミが群生しており、年々少しずつ数を増やしているようだとのことでした。そこへホシミスジが飛んで来ました。その名の通り羽の3本の白い筋が目立っていました。





ノイバラとコアオハナムグリ イモカタバミ ホシミスジ アケビの葉についた何かの虫の死骸に  
小ぶりのアリがたかっていた。よく見ると腹部に白い斑点がありました。またアケビの新芽を  
ハバチの幼虫が食べていました。アケビコンボウハバチの幼虫でした。その近くのアベマキの葉に  
は大きなイモムシがたくさんついていて、オオトビモンシャチホコというガの幼虫とのことでした  
。よく見ると体にはまばらに毛が生えていました。



群がるアリ アケビコンボウハバチの幼虫 オトビモンシャチホコの幼虫 **オヤブジラミ**の花が  
清楚な姿を見せていました。中にはもう実になっているものもありました。**ガマズミ**の花も咲き始  
め、たくさんの虫たちが訪れていました。中でも**コアオハナムグリ**が数多く目立ちました。湿地に  
さしかかるところで、**ウスノキ**の様子を見ました。花の時期は終わり、まだ青い実が頭をもたげて  
いました。

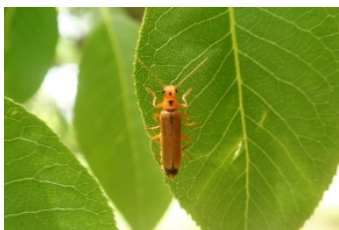


オヤブジラミ ガマズミとコアオハナムグリ ウスノキ **いつもは2羽でいるの**カ**ける**  
**モ**が、この日は1羽だけで池の中にいました。人が近くにいってもあまり気にしていない様子でした。  
**ニワゼキショウ**の花には色が白っぽいものと赤紫のものがありますが、**オオニワゼキショウ**  
、**コニワゼキショウ**などの種があり、見分けられませんでした。



カルガモ オオニワゼキショウ？ ニワゼキショウ  
も何ヶ所かで見られました。頭部と前胸背板の黒い斑点が目印です。スイカズラの花も行く先々で咲いていて、優しい香りを放っていました。花の色は白いものと黄味がかかったものがあり、咲いたばかりの時は白く次第に黄味を帯びるとのことでした。ヤマウルシの花にも注意深く近づいてみましたが、香りは感じられませんでした。

セボの鱗はウカイという甲虫の仲間





セボシジョウカイ スイカズラ ヤマウルシの花

湿地のそばのサワフタギ

タルガの幼虫がたくさんついていました。アニメ映画に出てくる「ネコバス」にその姿が似ていると言われますが、ネコバスよりはるかにカラフルな色彩です。田んぼの近くでカヤツリグサ科の仲間を2種続けて見ました。ゴウソとアゼナルコです。アゼナルコはゴウソに比べて穂の部分細長く垂れていました。







シロシタホタルガの幼虫 ゴウソ アゼナルコ  
、この日はすっかり咲きそろっていました。湿地ではそのほかヒメギスの幼虫を観察しました。黒い体の側面に白いラインが目立つシックな配色です。

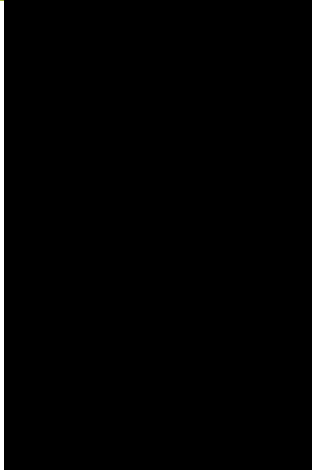
先月は花が1つだけ咲いていましたが



カキツバタ ヒメギスの幼虫  
、この日はすっかり咲きそろっていました。湿地ではそのほかヒメギスの幼虫を観察しました。黒い体の側面に白いラインが目立つシックな配色です。

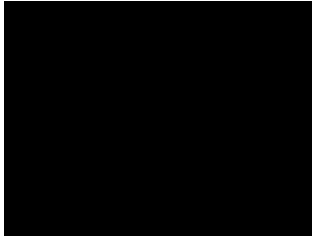
田んぼの道端アサキ(コムラサキの黒化型)が見つかり

ました。普通のコムラサキの羽の模様は褐色の地色にオレンジ色の帯が入るのに対し、クロコムラサキの方は黒い地色に白い帯が入るので見分けるのは難しくないようです。

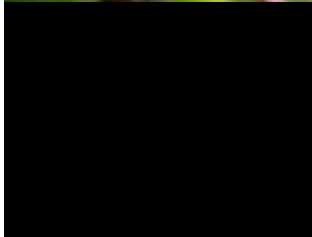


クロコムラサキ                      もう少し中道を進みました。キリの幹を見ると、複数の毛虫が動き回っていました。よく見ると樹皮を齧って食べているようでした。その場でイモムシの図鑑を調べると、地衣類を食べ物とする蛾、ウンナンヨツボシホソバの幼虫として掲載されている写真にそっくりでした。しかしヨツボシホソバの幼虫と酷似しているとのことで見分けるのは困難と考えて、**ヨツボシホソバの仲間の幼虫**としました。





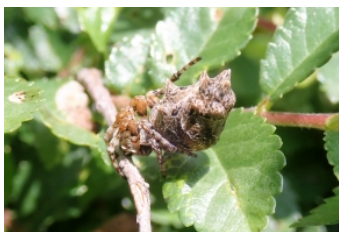
ヨツボシホソバの仲間の幼虫 トウチク林のヨボヅの実がつき始めているのを確認して帰り始めました。途中で先月は花が咲いていたサルトリイバラに実がついているのを見ました



ヒメコウゾ サルトリイバラの実 炭焼き広場のアキニレの木の枝に不思議な形の生き物がくっついていました。カイガラムシの仲間と教えられ、名前は**ヒモワタカイガラムシ**と分かりました。これはメスで白い部分には蠟状の物質に包まれた卵が入っているとのこと。今までのこの観察会で見られたことのない昆虫でした。アキニレの葉裏では**コチャコガネ**が複数見かりましたが、近づくすとポトリと落ちて逃げてしまいました。また別のアキニレの木の葉では**アキニレハフクロフシ**という名の虫こぶも見られました。



ヒモワタカイガラムシ コイチャコガネ アキニレハフクロフシ 炭焼き広場では**ゴミ**ほかに  
グモの様子を観察しました。張った網の真ん中でじっとしていたゴミグモを刺激するとさっと下の  
方へ逃げて行きましたが、そのまま少し待っているとまた元の場所にスルスルと上ってきて頭を下  
にしてとまりました。広場の脇ではソシンロウバイの木に今年もたくさん**偽果**がついていました。





ゴミグモ ソシンロウバイの偽果

この日別のルートで撮影された写真の中から興味深いものを記録として残します。アカマツの葉にオオワラジカイガラムシが刺さっている写真です。アカマツの下側の葉に5匹; 6匹のオオワラジカイガラムシが刺さっていたそうです。オオワラジカイガラムシは今年大発生していると見られていますが、アカマツのすぐ横のアベマキにオオワラジカイガラムシが多数いたそうです。下に落ちている死骸を試しにマツの葉にさしてみたところ容易にささることがわかったので、結論としてアベマキに発生したオオワラジカイガラムシが風に吹かれ落下したときに松葉に刺さったということが推測されたとのことでした。



アカマツの葉に刺さったオオワラジカイガラムシ  
ワゼニクサに関する情報が届きました。環境省の「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある  
外来種リスト」に掲載されており、水辺の生態系を守る観点から今後も注意深く対処していく必要  
がありそうです。

もうひとつ大坂池に現れた北米原産のウチ

この日の名古屋は最高気温が25度を記録し、初夏を思わせる一日となりました。出会う生きものの  
顔ぶれの中には先月に比べてイモムシや毛虫が増えました。通常其自然観察会が実施できず残念で  
すが、平和公園で暮らす生きものたちの記録を大切にしていきたいと思います。

平和公園での観察項目：ズミ、病気?の幼虫、ウメの実、ハムシの仲間、ツマグロオオヨコバイ、クロハ  
ネシロヒゲナガ、アメリカフウロ、ヤエムグラ、イボタのつぼみ、ヒメウラナミジャノメ、モモフトカミ  
キリモドキ、ハルジオン、ヤブキリの幼虫、コスズメ、ニシキギ、ヘビイチゴの花、ノイバラ、キムネクマ  
バチ、コアオハナムグリ、カミキリムシの仲間、イモカタバミ、エノキ、シマキリガの幼虫、ホシミスジ、  
アリの仲間、ゴヨウアケビ、アケビコンボウハバチの幼虫、オトビモンシャチホコの幼虫、オッタチ  
カタバミ、テッセンの花、キンミズヒキ、オヤブジラミ、ヒオドシチョウの幼虫(死んだ)、スズメノヤリ  
、ガの幼虫、アズマネザサ、ガマズミ、ウスノキ、カキツバタ、キシヨウブ、アカホシテントウの幼虫、ア  
カホシテントウの抜け殻、カルガモ、ニワゼキショウ、イセノナミマイマイ、コガタルリハムシ、スイカ  
ズラ、ゼンマイ、ヤマウルシの花、サワフタギ、シロシタホタルガの幼虫、ハエの仲間、ゴウソ、ヒメギス  
の幼虫、カヤツリグサの仲間、クロコムラサキ、ヨツボシホソバの仲間の幼虫、カナヘビ、ツツジ、ヒメ  
コウゾ、アカマツの葉に刺さったオオワラジカイガラムシ、サルトリイバラ、クモの仲間、コイチャ  
コガネ、ヒモワタカイガラムシ、ヒメコバンソウ、アキニレ、アキニレハフクロフシ、ゴミグモ、ソシン  
ロウバイの偽果、クワの実、ムクドリ、マダラガガンボ、ニホンアカガエルの脚、カスマグサ、ウチワゼ  
ニクサ